

プロジェクトマネージャー：岡 瑞起（筑波大学 システム情報系 准教授）

1. プロジェクト全体の概要

2023 年度は、3 つのプロジェクトを採択した。これらのプロジェクトは、社会的課題の解決や生活の質の向上を目指しつつ、革新的な技術を活用している点が共通している。採択した3つのプロジェクトは、育成期間中にプロトタイプの開発や実証実験を通じて、ユーザからの評価を得ながら改善を重ねた。プロジェクト終了後も継続的な開発や社会実装に向けた取り組みが計画されており、今後の発展が期待される。

2. プロジェクト採択時の評価（全体）

2023 年度の3つのプロジェクトは、以下のように実現可能性、社会的インパクト、チームワーク、情熱の4つの観点から評価し、採択した。

- 実現可能性：提案内容を実現するために必要な技術的知見や資源を有しているか
- 社会的インパクト：社会的課題の解決や生活の質の向上に寄与する可能性があるか
- チームワーク：多様なスキルを持つメンバーがチームとして協力できる体制が整っているか
- 情熱：提案者の強い情熱に基づいているか

「GPS と合成音声による防犯スマートフォンアプリケーションの開発」は、女性の安全という社会的課題に対して、GPS と合成音声を組み合わせた独自のアプローチで解決を目指す点を評価した。「月経中のストレス緩和を目的としたショーツ型経血量測定デバイス」は、月経中の女性のストレス緩和という明確なユーザニーズに対して、ハードウェアとソフトウェアを融合した革新的なソリューションを提案している点を評価した。「テーマパークでの満足度を最大化するためのプラン作成支援アプリケーション」は、遺伝的アルゴリズムを用いた最適ルート探索など、AI 技術を活用してユーザ体験の向上を目指す点を評価した。いずれのプロジェクトも、技術的な実現可能性と社会的インパクトを兼ね備えており、多様なスキルを持つメンバーがチームとして協力する体制が整っている。また、提案者の強い情熱が感じられる点も高く評価した。

3. プロジェクト終了時の評価

各プロジェクトは、プロトタイプ開発や実証実験を通じて、当初の目標を達成するとともに、新たな知見や改善点を得ることができた。定期的な進捗報告会や合同 PM ミー

ティングでは、プロジェクトマネージャーやメンター、他のクリエイターからの建設的なフィードバックを得て、開発の方向性を修正しながら進めることができた。特に、ユーザからの意見や要望を積極的に取り入れ、ユーザ視点でのプロダクト開発を実践した点は高く評価できる。

技術面では、GPS や合成音声、機械学習、BLE など、様々な技術の活用にチャレンジし、実践的なスキルを身につけた。また、ハードウェアとソフトウェアの融合、アルゴリズムの工夫など、独自の技術的アプローチを追求した。開発の過程では、予期せぬ困難にも直面したが、チームで知恵を出し合い、粘り強く乗り越えていく姿勢が見られた。

プロジェクトを通じて、クリエイター一人ひとりが大きく成長した。技術的スキルだけでなく、ユーザ視点でのものづくり、チームでのコミュニケーション、プレゼンテーション能力など、エンジニアとして必要な資質を総合的に高めることができた。プロジェクト終了後も、得られた知見を活かして更なる改善を続けていく意欲が感じられる。社会実装に向けた具体的な計画も立てられており、今後の活躍が大いに期待される。